

町史だより

西原のことば③

暮らしのなかの動植物

梅雨に入り、ぐずついた天気が続いていますね。沖縄では本土より約一ヶ月早く梅雨がやってきます。この時期を二十四節気にあてはめると小満せうまんと芒種ぼうしゅにあたることから、沖縄では梅雨の季節をスーマンボースーシューマンボースー（小満芒種）と呼んでいます。水資源の乏しい沖縄にとつて、この時期の雨は恵みの雨ですが、つい室内にこもりがちになってしまいます。しかし、一歩外へ出るとさまざまな動植物に出会うことができます。



▼シュリマイマイ(ウシジンナン)

雨の日によく見かける動物と言えばカタツムリがあげられます。カタツムリには色々な種類がありますが、西原ではそれらをまとめてチンナン、チンナングワチンナングワと言います。畑や家のまわりで目にするオキナワスカワマイマイ（チンナン、ハルチンナンなど）はアヒラー（アヒル）のエサとなったほか、サギグスイ（下げ藜）として用いられていました。

夜、しつぽの先から青白い光を放つホタル（ジーナー、ジンジンなど）は、ちょうど今が見ごろです。かつては西原でも夜になるとたくさんホタルが飛び交い、子どもたちが夢中になってホタル捕りをしました。そのとき、

ジンジン ジンジン 酒屋又水又テ
落チイリヨー ジンジン
下ガリヨー ジンジン

意訳：蛍よ、酒屋の水を飲んで落ちておいでよ、さがつておいでよ、蛍よ、蛍

と歌いながらホタルを捕まえ、瓶びんや練ったウンム（イモ）の中に入れて光る様子を見て楽しんでさうです。ホタル捕りに熱中するあまり、川へ落ちたりユウジー畑（サトウキビ畑）の中に迷い込んだりしてしまう子もいたと言います。

一方、スーマンボースーのところに咲く花として有名なのはウンジュ（イジユ）です。



▲ウンジュの花

ウンジュはヤンバルに多く、自生している高木です。この時期、高速道路などから見るヤンバルの山はウンジュの花で白く彩られています。その幹は堅く、ユウービキ（梁はり）やキチ（垂木たるき）などの建築資材として重宝されていました。町内では千原周辺に見られますが、戦前はヤンバル船で運ばれてきた材木を購入していました。ヤンバル船は戦後しばらくの間まで伊保の浜に入ってきたよう
で、そこから小那覇にあった材木店へ運び出していたと言います。

道端に目を向けると、ユウナ（オオハマボウ）の花が美しく咲き乱れています。ユウナの用途は多種多様で、葉をお皿として使用したり、トイレットペーパーの

代わりとして使用していました。また、木の皮から繊維をとって縄を作ったり、枝からおもちゃの刀を作ってチャンバラごっこをして遊んだりしたそうです。呉屋や掛保久では特にユウナの花をパーランクーと呼んでいました。花の形がパーランクーに似ているということなのでしょうか？

例年、沖縄の梅雨が明けるのは夏至にあたる六月二十一日ごろ。スーマンボースーが過ぎると、夏の到来を告げるカーチーペーが吹き始めます。

夏はもう、すぐそこまで来ています。

【二十四節気】

一年間を二十四の期間に分け、それぞれの期間の季節的な特徴を表す名前をつけたもの。

【カーチーペー】

梅雨明けごろから六月末まで吹き続く南ノ西の安定したやや強い季節風。

【参考文献】

西原町史編纂委員会『西原町史』第四巻 資料編三 西原の民俗／西原町教育委員会『西原町の自然と動物・人と自然の関わり』

沖縄タイムス社『沖縄大百科事典』高良初喜・佐々木正和『沖縄の気象と天気』